

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		新城 郁夫	所 属		法文学部 国際言語文化学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果		
教育	0.35	①共通教育指導においては、人文学的基礎と大学における研究の動機づけを学生たちに促す。②専門教育科目および大学院教育においては、特に日本近代文学と近現代沖縄文学の関連性についての応用的研究の実践にむけて、指導を徹底していく。			0.35	①、②の目標をすべて達成した。		
研究	0.35	科研費テーマの「戦後沖縄文学に関する思想史的研究」についての研究論文を発表し、同時に、国内外の学術会議やシンポジウム等で、口頭発表を行う。			0.35	論文3本(査読1本を含む)を、学術雑誌および共編書に発表した。あわせて、ソウル大学平和研究所から招聘を受け講演発表を行い、一橋大学大学院言語社会研究科主催シンポジウムにおいてディッカッサントを行う。また、3月下旬には、中国杭州でのインターアジア青年論壇学術会議で発表を行う。など、当初の目標を超える達成があった。		
社会貢献	0.10	大学における社会人公開講座等(共通教育「琉球アジア文化入門」)の機会を最大限に活用し、専門知の地域社会への還元を図り、社会貢献を積極的に果たしていく。			0.10	当初の目標を達成した。		
管理運営	0.10	将来構想委員会委員、およびワーキング・グループ戦略的研究推進専門委員会委員としての仕事を行う。			0.10	当初の目標を達成した。		
進路指導	0.10	卒論指導と大学院進学指導、そして大学院前期(修論)および後期課程の指導、加えて就職指導の徹底を図っていく。			0.10	当初の目標を達成した。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		金城 ひろみ	所 属		法文学部 国際言語文化学科
			職 名		准教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.35	①前期共通科目(中国語基礎Ⅰ、琉球アジア研究入門)をニコマ担当。②前期専門科目(中国語学概論Ⅰ、中国語学基礎演習Ⅰ、他七コマ)を担当。③前期大学院修士課程では、中国語教育学基礎特論を担当。④後期共通科目(中国語基礎Ⅱ)を担当。⑤後期専門科目(中国語学基礎演習Ⅱ、中国語学特講Ⅱ、他七コマ。)を担当。⑥後期大学院修士課程では、中国語教育学応用特論を担当。⑦その他、海外文化研修の引率。		0.35	前期・後期を通し、共通教育科目3コマ、専門教育科目14コマ、修士課程科目2コマ、そのほか、海外文化研修の引率を行い、予定の講義科目全てを開講。
研究	0.35	①平成25年度科学研究補助金(基盤研究B)による研究。―「近世琉球社会における言語運用の諸相に関する総合的研究。」「琉球・中国言語文化交流史の研究―『琉球官話』と『琉球入学見聞録』の比較考証」の2件。②その他、琉球・中国に関する研究シンポジウムでの発表。10月までには、3本の論文を提出する。		0.35	科学研究補助金の研究課題2件ともに、研究分担者として研究を行った。いずれも中国・琉球関係の言語に関する研究であるが、論文3本、翻訳1本を発表。またそれ以外に、『方言与中国文化』の日本語翻訳本の出版も最終校正段階である。
社会 貢献	0.10	①沖縄大学にて、週2回、「オーラル中国語」の講義を担当。②放送大学沖縄支所にて、面接授業。(2日間で8コマ。)		0.10	前期・後期共に、沖縄大学での「オーラル中国語Ⅰ・Ⅱ」(週2コマずつ)を担当した。また6月には、放送大学にて中国語の講義を8コマ行った。
管理 運営	0.10	①入試委員、安全施設委員を担当。②全学の国際課に関連する運営委員。安全衛生委員の委員、外国語センターの運営委員。③学部のハラスメント相談窓口。④留学生センターに関する「学生交流委員会」の構成メンバー。⑤海外文化研修の運営委員。		0.10	学部の入試委員・施設委員、全学の国際課運営委員、安全衛生委員、外国語センター委員を担当。そのほか、学部のハラスメント相談窓口、国際課の学生交流委員会委員を担当。海外文化研修委員も務めた。
進路 指導	0.10	留学希望者に対するアドバイスを担当。また留学からもどってきた学生に関して、さらに進んだ語学学習を提供する。		0.10	留学希望者に対する情報提供や、中国語を要する仕事に関する就職活動の情報提供等も行った。就職講話を行う際のコーディネイトを行った。
	0.00			0.00	
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠を広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		宮平 勝行	所 属		法文学部 国際言語文化学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果		
教育	0.30	シラバスに基づいて計画的に講義を行う。学部教育においては対話を重んじた参加型の講義を目指す。留学生も受講できる英語講義を提供し、日本人学生との交流を図る。大学院教育においては受講生が国際的な視野を養えるように英文の教材を中心とした講義を行う。大学院生(1人)の修士論文指導を丹念に行う。			0.30	講義は概ねシラバスに基づいて計画通り実践することができた。スライドプロジェクターを用いてできるだけ体系的で理解しやすい講義を行った。口頭英語表現I&IIのクラスでは外国人留学生を交えて英語による講義を実施し、学生の英語による発言力を強化した。大学院のクラスでは英語の文献を精読し、グローバルな視点で教授した。修士課程の学生の研究活動も順調に進展している。		
研究	0.20	3年目に入る基盤研究(C)「継承沖縄語と大和沖縄語～談話構造とコミュニケーション方略の国際比較研究」を精力的に進める。昨年度国内外で収集した大和沖縄語の自然会話のトランスクリプトを作成し、会話分析を進める。10月に行われる国際多文化ディスコース学会でその成果の一部を口頭発表する。あわせて来年度出版予定の研究図書(「琉球諸語の社会言語学研究」)に向けて論文を1～2本提出する。			0.20	これまでに収集した自然会話のデータとウチナーグチ講座のデータをもとに、国際多文化ディスコース学会においてDr. Petrucciと共同で研究発表を行った。サンパウロやロサンゼルスで行ったフィールドワークとこれまでに収集した談話データをもとに研究図書(Language Crisis in the Ryukyus)に2編の共著論文を提出した。		
社会貢献	0.10	法文学部地域貢献支援委員会の委員長として地域貢献フォーラムなどの事業を実行する。平成25年度教職免許更新講習の一環として「英語スピーチの基礎と応用」という名称で講義する。琉球大学欧米文化同窓会の事務局長として学生の育英活動に取り組む。学外の希望者に対して本学で提供している講義を公開する。			0.10	本年度は那覇、石垣市、宮古市でそれぞれ法文学部地域貢献フォーラムを実施した。委員長として企画・運営に精力的に取り組んだ。教職免許更新講習の一環として「英語スピーチの基礎と応用」という講義を行ったところ定員一杯の20人が受講し好評であった。琉球大学欧米文化同窓会の事務局として語学力賞や優秀学士賞・修士賞などの育英事業に取り組んだ。		
管理運営	0.25	法文学部副学部長及び国際言語文化学科長として中期計画に則って各種事業を推進する。人文社会科学研究所後期課程の「年報」の編纂に当たる。国際沖縄研究所の運営委員として研究所の運営に尽力する。			0.25	法文学部副学部長及び国際言語文化学科長として多くの委員会活動を通して大学の中期計画の推進、ミッションの再定義、将来構想などの基幹事業に取り組んだ。人文社会科学研究所後期課程の「年報」の編纂は多少遅れぎみだが、来月には刊行できる見通しである。		
進路指導	0.15	国際言語文化学科英語文化専攻4年次(夜間主)の指導教員として、来年の卒業に向けて進路相談など、きめ細かな指導を心がける。指導学生と指導教員のためのメーリングリストを運用し、相互のコミュニケーションの円滑化を図る。教育実習に参加する学生を励まし、研究授業へ参加する。学科・専攻が一丸となって取り組む就職・進学に関する啓蒙活動に協力する。			0.15	卒業を控えた英語文化専攻夜間主の指導学生の修学指導と進路指導に精力的に取り組んだ。メーリングリストなども活用しながら、卒業に必要な要件を学生とともに随時確認しながら指導を行った結果、一人を除いて全員を卒業させることができた。教育実習中の学生の研究授業に出席し激励した。その他、留学や奨学金などの育英事業に関する指導も行った。		
	0.00				0.00			
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		兼本 円	所 属	法文学部 国際言語文化学科	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.50	共通教育と専門教育のバランスを取って行く。授業外指導も積極的に行いたい。		0.50	バランスは適切に保てたと思う。授業外指導も良かったと思う。	
研究	0.20	研究発表を国内外で行う。		0.20	韓国の大学2校で行った。	
社会 貢献	0.10	出前出張講座を行う。		0.10	沖縄県立宮古高等学校で講和を行った。	
管理 運営	0.10	専攻の予算委員長の役割を全うする。		0.10	全うできた。	
進路 指導	0.10	夜間主2年次の指導教官として尽力する。職種や就職に向けての助言を積極的に行う。		0.10	JTAのCAIに来てもらい、学生に話をしてもらった。	
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	石原 昌英		所 属	法文学部 国際言語文化学科	
職 名	教授				
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果
教育	0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博士課程前期の学生3名、及び博士課程後期の学生4名の指導教員として、年次進行に応じた指導を行う。後期課程2年次の学生については査読付き論文への投稿を指導する。</li> <li>・共通教育及び学部の教育は担当科目が少ないが、学生の英語力向上を目指した授業を行う。</li> <li>・琉球学副専攻の必修科目として新設される「琉球学入門」のコーディネートをするとともに、オムニバス授業に参加し、2回でいど琉球と言語について講義する。</li> </ul>		0.25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博士前期課程については2年次1名、1年次2名を指導した。2年次学生はオリジナリティの高い修論を書き上げた。1年次学生については、基礎的知識の理解を深める指導を行った。</li> <li>・博士後期課程については、2年次3名、1年次1名を指導した。このうち、3名が国内外の学会で発表した。2年次学生については、長期履修制度を活用した1名を除き、社会言語学分野の雑誌等を紹介し、査読付き論文への投稿 について指導した。また、4名の学生が参加したゼミ形式のクラスを開設し、博士論文や学会発表論文に関する指導を行った。</li> <li>・共通教育については、工学部夜間主の(1)「大学英語」、(2)「琉球学入門」、(3)「現代アメリカ論」を担当した。(2)については、コーディネーターを務め、2回の授業を担当した。(3)については1回の授業を担当した。</li> </ul>
研究	0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>※外部資金獲得に向けた取組がある場合には必ず記載ください</li> <li>・昨年度の引き継ぎ、文化庁の委託を受けた消滅の危機にある言語・方言についての調査を実施する。</li> <li>・科研費補助研究(代表山里勝己名桜大学教授)の分担者として琉球およびハワイにおける言語接触について調査する。</li> <li>・昨年度、国際沖縄研究所の報告書で発表した研究をブラッシュアップする。</li> <li>・1940年に起こった「沖縄方言論争」について、「精神の植民地化」の観点から研究して、成果を発表する。</li> </ul>		0.15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化庁の委託を受け、危機的状況にある言語・方言の実態に関する調査研究プロジェクトの研究代表を務め、報告書の編集を行った。</li> <li>・琉球とハワイにおける言語接触に関する文献資料(先行研究)を調査収集し、両地域における言語接触の様態に関する比較研究を進めた。</li> <li>・沖縄県における琉球諸語の復興に関する言語意識について、ジェンダーの観点からまとめた論文が『沖縄ジェンダー学』(喜納育江編・大月書店)に掲載された。</li> <li>・「沖縄方言論争」については、研究が進まなかった(副学長の用務が予想以上に多かったため)。</li> </ul>
社会貢献	0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究分野の言語復興との関連で、沖縄県やその他の委員会等に積極的に協力する。</li> <li>・沖縄県における琉球諸語の復興について、知識の啓蒙をはかる。</li> </ul>		0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄県の「しまくとぅば普及推進専門部会」に委員として参加し、研究者として様々な助言を行った。</li> <li>・『沖縄タイムス』の「しまくとぅば新聞・うちなあタイムス」に寄稿し、沖縄県や八丈町における言語復興の意義等について論じた。</li> <li>・2013年12月に開催された八丈町教育委員会・国立国語研究所共催のシンポジウム(於八丈町)に参加し、昨年度の文化庁委託事業(危機的状況にある言語・方言の保存・継承に係る取組等の実態に関する調査研究)について報告した。</li> <li>・2月23日に沖縄県立博物館・美術館において今年度の文化庁委託事業(上記参照)の報告会を実施し、言語危機とは何かについて基調講演を行い、シンポジウムのパネリストを務めた。</li> </ul>
管理運営	0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・副学長(自己点検・評価)として、法人評価及び認証評価とに関連で全学の自己点検・評価を統括する。</li> <li>・上記とは別に、大学評価に関連した職務を遂行する。</li> <li>・副学長職で参加する全学教育委員会委員等の職務を遂行する。</li> <li>・琉球学副専攻の主任として、円滑な副専攻運営に努める。</li> </ul>		0.40	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己点検・評価担当の副学長として25年度の法人評価自己評価書のとりまとめを行った。</li> <li>・本年度に設置された企画経営戦略会議の下におかれた「IR検討プロジェクトチーム」の座長として、本学のIR(Institutional Research)の方針についてとりまとめた。</li> <li>・副学長として各種全学委員会に参加した。</li> <li>・琉球学副専攻の主任として、新設の「琉球学入門」のコーディネーターを務めるとともに、学生便覧等の記載事項についてとりまとめた。</li> </ul>
進路指導	0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語文化専攻夜間主コース3年次の指導教員として、昼間主コース3年次の指導教員および夜間主コース3年次のもうひとりの指導教員と協力して、就職懇談会の開催などを通して進路指導を行う。</li> <li>・夜間主コース3年次の学生の履修状況を確認して、適切な履修指導を行う。</li> <li>・博士前期課程の指導学生の進路に関して、適切な指導助言を行う。</li> </ul>		0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間主コース3年次の指導教員として、就職活動に関する情報の提供を含め進路指導を行った。</li> <li>・年次別懇談会等を活用し、3年次として留意することを含め履修指導を行った。</li> <li>・博士課程(前期・後期)の指導学生7名に対し、修了後の進路について意識するように指導した。前期課程修了者1名は民間企業に内定した。</li> </ul>
	0.00			0.00	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		小那覇 洋子	所 属		法文学部 国際言語文化学科	職 名		教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定			業務 ウエイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果		
教育	0.60	学部:①リーディングⅠ ②英語科教育法B ③英作文演習中級 ④英文法演習⑤ことばの理解と記憶 ⑥英語科教育法A 大学院: ①外国語習得特論 ②修論指導 ③外国語習得特論演習 学部の②は教育法Aの理論の実践であり、それが活かされているのか、見極めたい。大学院の②修論は指導学生がこの8月に留学するので、留学する前にほぼ完成するように指導している。			0.60	概ね達成された。①学生評価はかなり良かった。②まだ改善の余地あり。③エッセイをかなり書いてもらったので、学生からこの授業で、英語力がつくという評価をもらった。⑤実験を各受講生が行うが、好評だった。大学院の②修論は学生がハワイ留学をしているが、思った以上にあちらでの学習に時間を取られアンケートの結果まで、終了している。		
研究	0.20	①国際英語とアイデンティティーの関係について学内紀要に発表。			0.20	①国際英語とアイデンティティーの関係について大学センター報に投稿した。 ②外国語習得における記憶のメカニズムについて法文紀要に投稿した。		
社会貢献	0.05	①高校スピーチ大会の審判員 ②中学ストーリーコンテスト大会の審判員 ③沖縄英語教育学会運営委員			0.05	①, ②, ③それぞれ達成した。		
管理運営	0.05	①協定校イェーテボリ大学(スウェーデン)への派遣学生選抜委員 ②法文各種委員 ③合同会議紀要委員			0.05	①新しい委員に引き継ぐ際に事務手順を作成し、スムーズに引きついた。		
進路指導	0.10	①大学院修士論文指導教員として推薦書や進学相談			0.10	概ね達成した。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		石川 隆士	所 属		法文学部 国際言語文化学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果		
教育	0.25	(1)大学院前期週3コマ、後期週3コマ、学部前期週4コマ、後期3コマ、計13コマの授業を行う。(他にノルマ外で卒論指導6人) (2)大学院の「アングロアイリッシュ文学特論」、学部専門科目の「イギリス文学研究II」、「現代イギリス文学」は専門領域である英文学について平成20年度、平成21年度に執筆した論文の研究成果を反映させる。			0.25	(1)予定された担当より後学期に学生の希望により大学院1コマ、学部2コマプラスの担当をした。(2)は予定通りである。		
研究	0.25	(1)「風の詩学」に関する論文を1本執筆する。			0.25	予定通り執筆できなかった。「管理運営」の部分と関わるが、英語文化専攻のFD委員として大学間連携IR事業の英語力調査研究委員会の報告書の執筆に関わり、時間が取れず年度内の研究論文執筆は断念した。		
社会貢献	0.05	(1)高校への出前講座を行う。(2)平成25年度沖縄県のキャリア教育事業「高校生等のためのキャリア形成支援プログラム事業」の学部部門のリーダーとして沖縄県のキャリア教育の発展に貢献する。			0.05	(1)については本年度は1件実施した(2)については同事業の実施のみならず、沖縄県主催のシンポジウムへの出席、報告書の作成、報告書データに基づく英語文化専攻でのFDの実施などを行った。		
管理運営	0.30	(1)大学教育センター副センター長として全学の共通教育科目の運営にあたる。(2)アドミッション・オフィス実施部門長としてアドミッションオフィスの実施にあたる。(3)入学者選抜方法等検討委員会委員として入試の運営にあたる。(4)キャンパス情報システム仕様策定委員として同システムの策定にあたる。(5)大学案内作成WGとして同案内の作成にあたる。(6)人文社会科学研究科年度計画策定委員長として年度計画の実施にあたる。(6)法文学部広報委員として法文学部の広報にあたる。			0.30	(1)は予定通り行ったが、役職指定として全学学士教育プログラム委員会の副委員長を務め、アセスメントポリシーの取りまとめおよび活動例報告を行った。また、今年度、九州地区一般教育協議書きの当番校であったため、その運営および全大会にて英語教育に関する研究発表を行った。(2)は予定のものに加えオープン・キャンパスアンケートの分析報告書を作成し、新たなオープン・キャンパスの実施方法の策定に取り組むこととなった。(3)(4)(5)は予定通りである。他に大学教育等改善経費を受け英語文化専攻の質保証の充実についての取り組みを行った。加えて法文学部広報委員として学部広報の作成、オープン・キャンパスの運営に携わった。年度目標後に任命された人文社会科学研究科の年度計画委員会の委員長として膨大な年度計画の取りまとめを行った。		
進路指導	0.15	(1)4年次指導教員として、進路を射程に入れた修学相談、指導を行う。(2)卒論担当の学部生に進学、就職についての指導を行う。(3)修論指導の大学院生に進路を射程に入れた修学相談、指導を行う。			0.15	(1)は予定通り行った。特に留学、進学、進路相談については多くを実施した。(2)(3)は予定通り実施した。特にメンタルな部分に問題を抱える学生、学費のねん出に苦勞する学生の相談に時間をかけた。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		吉田 兼次	所 属	法文学部 国際言語文化学科	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果	
教育	0.20	週5コマの授業は、より良い授業ということ考えると、かなりの負担であるが、教材を綿密に研究し、分かり易い説明を考え、準備を万端にして授業に臨みたい。		0.20	授業には十分に準備をして臨んだ。学生による授業評価も良かった。	
研究	0.20	少なくとも1篇の論文執筆を目標にしている。		0.10	いくつかの論文に着手はしたが、完成には至らなかった。	
社会 貢献	0.20	県の要請を受けて『沖縄県史資料編』のベッテルハイムの日記を翻訳している、小生の分担部分を無難にこなしたい。		0.30	ベッテルハイム日誌の翻訳には相当の時間をかけた。良い翻訳ができたと自負している。	
管理 運営	0.30	専攻内の教授が多用であることから、小生が、准教授であるにもかかわらず、4月から専攻主任を務めている。これも無難にこなしたい。		0.30	主任の仕事は教育・研究の取りまとめ役だけでなく、人間関係の調整役でもある。無難にこなしたと考えている。	
進路 指導	0.10	小生の指導学生はまだ2年次であるが、進路について少なからず相談を受ける。適切な助言を心がけたい。		0.10	進路について多く相談を受けた。大学間協定による留学生を二名輩出することになった。休学の相談も多く受けた。勇気づけてあげて、休学中も相談に乗ることを約束した。	
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		



(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		Christopher Davis	所 属		法文学部 国際言語文化学科 英語文化専攻	職 名		講師
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果		
教育	0.30	明確なシラバスに基づいて講義を行う。英語語学系の授業は、昨年より学生による発表等を重視し、学生によるスピーキングとディスカッションの時間を増やす予定である。地域語概論の授業では学生にフィールドワークをもらい、最後に文法スケッチとしてまとめてもらい、「意義のある」成果となる課題を目指す。他の言語学系の授業では、英語のテキストを使い、主に英語で講義を行うことによって学生の英語に触れる機会を提供する予定である。夏休みの間にはハワイ大学での海外研修の引率もする予定である。			0.45	主に予定通りに教育目標を達成した。地域語概論の場合だけ、最初に考えていたグループ調査がうまくいかず、途中で別の調査課題(八重山語宮良方言の調査)に直す必要があったので、次回のシラバスを訂正する必要があるように思われる。英語意味解釈における英語のテキストの使用と英語による講義は問題なくできて、今年も同じ方法で教えるつもり。海外研修も無事に行えた。計画していたより教育のウェイト比は高かった。		
研究	0.35	八重山語宮良方言の記述的研究を続ける予定である。夏までには文法スケッチを作成し、二年後の文法書の基礎となる記述を終わらせる予定である。平成25年度から取得した科研費(プロジェクト名:八重山語の焦点辞「du」と疑問文の関係)の研究を始め、フィールド調査によって一年目の実施計画を行う。後期からは日英語のシンタックスに関する実験をも行なう予定である。これらの研究成果は、国内・海外の学会で発表し、ジャーナルの論文としてまとめる予定である。			0.20	八重山語宮良方言の文法スケッチはある程度出来上がったのだが、計画よりその成果が遅くなった。また、教育のウェイト比が高くて、研究の時間が計画より少なくなったため、科研費の研究も遅れているが、学会発表などはできて、今年度からその研究を深める予定である。		
社会貢献	0.15	八重山語宮良方言の記述的研究を進めながら、一般の方も使える学習ツールをも作成する予定である。宮良の話者との相談の上で使いやすいカナ表記を決めて、カナ表記によるテキストと音声データを公開し、その使い方等についてコミュニティの方々に説明する予定である。宇宮良の公民館で研究成果をわかりやすく説明する予定もある。			0.10	八重山語宮良方言のカナ表記についての文章をまとめることができ、地元の方と直接に相談することもできたが、公民館での研究発表は今年ではできなかった。		
管理運営	0.05	外国語センター運営委員として外国語センターの運営に尽力する。ハワイ海外研修の運営に関する事業にも尽力する。			0.10	問題なく目標を達成した。ハワイ海外研修の運営に関する事業は計画より時間がかかったため、次回はウェイト比を改めて考える必要がある。		
進路指導	0.15	国際言語文化学科英語文化専攻1年次(昼間主)の指導教員として、新入生の指導に心がける。メーリングリストを運用し、必要な情報を常に学生に知らせる。また、いつでも気楽に研究室に相談しに来ることができる態度で学生と接し、大学生活の第一歩を応援する。			0.15	指導教員として新入生の指導に関する目標を達成できた。メーリングリストを作成し、それを通して様々な情報を学生に送っているものの、管理が難しく今年度からはメーリングリストの形を変えて、「groupspaces」という情報共有サイトを使おうと考えている。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		吉井 巧一	所 属		法文学部 国際言語文化学科	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果		
教育	0.30	(1)楽しく効果の上がる学習者中心の授業をさらに進め、外国語教育の充実をはかる。(2)各種FD活動の機会を活用し、授業技術のレベルアップに努める。(3)提携校からの留学生を授業補助者として有効活用する。(4)テニス部顧問として学生の指導に当たる。		0.30	(1)目標を十分達成できた。(2)目標をほぼ達成できた。(3)目標を達成できた。(4)目標を達成できた。		
研究	0.30	(1)各種ドイツ語関係のワークショップ(DaF-Werkstatt)に参加する。(2)学会等で外国語教授法に関する最新の研究資料を収集・分析する。		0.30	(1)目標を達成できた。(2)目標を十分達成できた。		
社会 貢献	0.20	(1)沖縄日独協会理事、国立沖縄高等専門学校、沖縄国際大学及び沖縄県立芸術大学非常勤講師として、沖縄県におけるドイツ語・ドイツ文化の普及に協力、貢献する。(2)担当の「インテンシブドイツ語I・II」のクラスを公開授業とする。		0.20	(1)目標を達成できた。(2)目標を十分達成できた。		
管理 運営	0.10	法文学部教育委員としての職務を遂行する。		0.10	目標を達成できた。		
進路 指導	0.10	指導教員・進路支援委員会委員として、大学就職センター等を活用しつつ学生の進路指導・就職指導を進める。		0.10	目標をほぼ達成できた。		
	0.00			0.00			
計	1.00			1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		西森 和広	所 属		法文学部 国際言語文化学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果		
教育	0.40	共通教育科目、前期・後期、計5科目、専門科目、前・後期、計5科目、大学院、計1科目を担当する。			0.40	左記目標を達成した。		
研究	0.25	セルジオ・レオーネとポール・ヴェルレーヌ研究を継続する。論文、または研究ノート等を1本以上を執筆する。			0.20	左記目標を達成できなかった。執筆準備は継続した。また別個に新たにフランス語教育に関する共同研究を同僚と行うことになり、これを推進した。		
社会貢献	0.10	高校生対象の公開講義を1件提供する。他大学に置いて講義を担当する。所属学会の運営委員を務める。			0.10	左記目標を達成した。		
管理運営	0.25	自己評価関連の全学及び学部の委員会委員を務める。本年は外部評価のための評価書作成員として、評価書作成に加わる。他に学部の紀要委員会委員等、各種の委員会委員を務める。また学生演劇部の顧問を務める。			0.30	左記目標を概ね達成した。、評価書作成に係る業務は予想よりも大きな時間と労力を割くものとなった。上記研究目標の未達成にも影響したと考える。		
進路指導	0.00				0.00			
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		ティル・ウェーバー	所 属		法文学部 国際言語文化学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果		
教育	0.40	(1) 学生による授業評価で、以下のような結果が得られるような講義を行う: (A) 積極的に授業に参加した。(B) 活気のある、面白い授業であった。 (2) デュッセルドルフ大学からの教育実習生を受け入れ、受け入れ責任者として助言・指導する。			0.40	(1) 「インテンシブドイツ語Ⅰ、Ⅱ」は今年も学生に好評で、学生から高い評価を受けた。 (2) デュッセルドルフ大学より教育実習生を前期と後期に受け入れ、責任者としてコーディネート及び指導を行った。		
研究	0.30	(1) Die Samurai der Sengoku-Zeit の第2巻(Band 2)をBerlin: Zeughaus 社から出版する(出版予定2012年12月)。 (2) ドイツ学術交流会(DAAD)の研究グループ「言語教育におけるドイツ語による音楽」のメンバーとして、ウェブページを作成する。並びに研究会に参加し、研究発表を行う。			0.30	(1) Die Samurai der Sengoku-Zeit の第2巻(Band 2)をBerlin: Zeughaus 社から出版した(2012年12月)。 (2) ドイツ学術交流会(DAAD)の研究グループ「言語教育におけるドイツ語による音楽」のメンバーとして、ウェブページを作成し、研究会で積極的に発言した。		
社会貢献	0.20	(1) 琉球新報カルチャーセンターにてドイツ語(中級)の講義を行う。(2) 在沖縄ドイツ名誉領事として、その職責を全うする。(3) 西日本独文学会教育委員としてドイツ語合宿セミナー(Inter Uni)を企画・運営する。			0.20	(1) 琉球新報カルチャーセンターにてドイツ語(中級)の講義を行った。 (2) 在沖縄ドイツ名誉領事として、さまざま行事に参加し、ドイツ文化を紹介した。 (3) 西日本独文学会教育委員としてドイツ語合宿セミナー(Inter Uni)を企画・運営し、参加学生から高い評価を受けた。		
管理運営	0.05	広報委員、オープンキャンパス委員、留学アドバイザーとして委員会活動に従事する。			0.05	広報委員、オープンキャンパス委員、留学アドバイザーとして委員会活動に尽力した。		
進路指導	0.05	学生の就職・進学に関し、必要に応じて指導・助言する。			0.05	学生の就職・進学に関し、必要に応じて指導・助言した。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		鈴木 正士	所 属		法文学部 国際言語文化学科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果			
教育	0.30	週7コマを担当する。授業における欠席者や遅刻する学生に対して、理由を尋ね解決策をともに考え、より積極的な授業参加を促す。レポートの書き方を指導する。オフィスアワーを定め、学生の質問や相談に応じる。理解力不足の学生に個別に学習指導する。		0.30	週7コマを担当した。授業における欠席者や遅刻する学生に対して、理由を尋ね解決策をともに考え、より積極的な授業参加を促した。レポートの書き方を指導した。オフィスアワーを定め、学生の質問や相談に応じた。理解力不足の学生に個別に学習指導した。			
研究	0.20	7月にブエノスアイレス大学(アルゼンチン国)で行われる、3年に一度開催の国際スペイン語学文学者学会において『ドン・キホーテ』に関する研究発表を行う。継続して行っている『ドン・キホーテ』の研究を引き続き続けていく。セルバンテスやスペイン現代作家の作品を翻訳する。		0.20	7月にブエノスアイレス大学(アルゼンチン国)で行われる、3年に一度開催の国際スペイン語学文学者学会において『ドン・キホーテ』に関する研究発表を行った。継続して行っている『ドン・キホーテ』の研究を引き続き続けていく。セルバンテス『嫉妬深いエストレマドゥーラ男』『びいどろ学士』やスペイン現代作家ホセ・マリア・メリーノの作品を翻訳した。			
社会貢献	0.10	地域貢献委員として地域貢献のための具体的な計画の立案・実施に励む。		0.10	地域貢献委員として地域貢献のための具体的な計画の立案・実施した。			
管理運営	0.20	入試委員として遅滞なく入試業務が展開するようつとめる。教員養成営委員をつとめ、教職を志望する学生の指導・教育にあたる。地域貢献委員をつとめ地域への教育学術の寄与につとめる。		0.20	入試委員として遅滞なく入試業務が展開するようつとめた。教員養成営委員をつとめ、教職を志望する学生の指導・教育にあたった。地域貢献委員をつとめ地域への教育学術の寄与した。			
進路指導	0.20	学生の進学・就職に関し、必要に応じて指導・助言する。就職センターの存在を知らせたり、就職講演会への出席をはかるなど、学生の就職意識を高める。県内外の大学院への進学を希望する学生の指導助言にあたる。学生の留学相談に応じ、協定校やメキシコ政府留学生試験などについての助言・指導を行う。		0.20	学生の進学・就職に関し、必要に応じて指導・助言する。就職センターの存在を知らせたり、就職講演会への出席をはかるなど、学生の就職意識を高めた。県内外の大学院への進学を希望する学生の指導助言にあたった。学生の留学相談に応じ、協定校やメキシコ政府留学生試験などについての助言・指導を行った。			
	0.00			0.00				
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		フランク・デルバール	所 属		法文学部 国際言語文化学科	職 名		講師
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成25年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成25年度 年度末自己点検結果			
教育	0.40	授業における教育と準備。フランス語学習者の勉強力を支える文脈化された文法書の作成。留学支援。フランス語の資格取得支援。留学から帰国した生徒向けのフランス語サークル。フランス海外研修参加と準備。		0.48	予定通りにすべての作業を成し遂げました。			
研究	0.40	東フランスにおけるアルピタン語のピュージェー方言に関する研究とフランス語の文脈化された文法に関する研究。双方に対して発表(1回ずつ)論文(1部ずつ)発行予定。		0.40	各発表も予定通りに行われました。また、各論文も予定通りに査読され、発行されることになっています。フランス語文法の執筆も順調に進んでいます。			
社会貢献	0.00			0.02	仏検監督に参加しました。			
管理運営	0.20	.日本フランス語教育学会委員会員+関西教育学会委員会員+キャンパス21委員会員+学生生活委員会員+法学部将来企画委員会委員		0.10	予定通りにすべての作業を成し遂げました。			
進路指導	0.00			0.00				
	0.00			0.00				
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		